

交 流 親 善 コ ー ナ ー ①

新潟市とナント市（フランス） ～みなとまちに咲く交流の花～

新潟市観光・国際交流部国際課

二つのみなとまち

日本一の大河「信濃川」の河口に位置する新潟市は、千年の歴史あるみなとまちです。国内外の各地との交易を通じてさまざまな文化が入り込み、それらが新潟の創造性を刺激してきました。

また、外からのものをあたたかく受け入れるおもてなしの精神がはぐくまれ、先人のたゆまぬ努力によって改良された豊かな田園で収穫されるコシヒカリ、豊富で多彩な海と里の幸を生かした郷土料理とともに、食品加工産業、醸造・発酵産業が発展し、豊かな食文化を形成しています。

一方、ナント市はフランス最長のロワール川の下流に位置する、水と緑に囲まれた美しい街で、1532年の「ナントの勅令」の地としても大変有名です。18世紀には新たな水上交易によりフランス随一の貿易港となりました。近代は造船業をはじめとする工業・産業で栄えましたが、重工業の衰退などを契機として文化による都市の再生を図り、フランスで最も住みやすい街として知られるようになりました。

民間交流から姉妹都市提携へ

1991年、新潟市で「新潟・フランス協会」が設立されるにあたり、フランス大使館から交流相手としてナント市の「アトランティック・ジャポン協会」が紹介されました。以来、新潟・フランス協会メンバーを含む市民使節団や文化交流使節団が精力的にナント市を訪問する一方、ナント市からも多くのゲストを招いて音楽会や講演会を開催するなど、市民レベルでの交流が活発に進められてきました。

そして、ナント市での「新潟フェア」（1996年）、新潟市での「ナントフェア」（1998年）の開催を経て、1999年に両市の地理的条件や行政面での共通点を踏まえ交流協定が結ばれます。これを機に交流はいっそう拡大し、行政面でも国際会議の開催や市職員の研修・視察などが行われ、市民レベルでは両協会のメンバーや市民団、中学生・専門学校生の相互訪問、音楽祭、絵画展、写真展などが開催されました。これらの多方面における交流の重要性から、2009年に姉妹都市となりました。

多岐にわたる交流

ナント市は世界各地で行われているクラシック音楽の祭典「ラ・フォル・ジュルネ（熱狂の日）」発祥の地で、新潟市でも2010年から開催しており、昨年までの5年間の延べ来場客数が34万人を超えました。



ラ・フォル・ジュルネ新潟2014の様子

また、新潟市からは新潟市を拠点に活動している日本初の劇場専属ダンスカンパニー「Noism（ノイズム）」を派遣しワークショップを行い、ナント市からはバロック・アンサンブル「ストラディヴァリア」、劇団「アンサンブル・スケネ」

がそれぞれ来訪し公演を行っています。

さらに、日本海側最大の規模を誇り、200団体・1万人以上の踊り子たちが新潟県内外を問わず海外からも集結し、新潟の秋の風物詩として定着している「にいがた総おどり」の実行委員会は、ナント市で公演やワークショップを開催し、現地のダンスグループと共同クリエーションを行うなどしています。

ナント市の提案で2007年から始まった「日仏都市・文化対話」は、積極的な対話により文化創造に関する多角的な都市間交流を推進するもので、両国自治体の文化政策関係者や文化人らにより、互いに議論を深めることを目的としています。2013年にナント市で4回目の対話が開催され、今年は「東アジア文化都市」に選ばれた新潟市で、中国・韓国の都市も交えて10月に開催される予定です。

新潟市はまた、ナント市で5年に一度開催されるフランス国内最大規模を誇る花の博覧会「ナント国際フロラリー」にも園芸作品を出展し、2度目となる昨年はブーステーマである「ア・モニュメンタル・ディナー（和訳：記念晩餐会）」のもと、新潟らしい水田と潟を再現し、それらを臨む日本間に新潟の伝統工芸品である新潟漆器を置くことで、新潟の豊かな自然と日本の宴を表現する作品を展示しました。



第11回ナント国際フロラリーの様子

このほか、ナント市から剣道人の訪問団が来訪し稽古を通じて交流を行ったり、食と美容、マンガ・アニメなどに関する両市の専門学校が研修旅行で相互訪問を行ったりと、若い世代の自主的な交流も盛んです。

「日仏交流優良賞」受賞

このように、芸術、文化、スポーツなどの幅広い分野で官民や世代を問わず活発な交流が続いていることが評価され、昨年10月末に香川県高松市で開催された第4回日仏自治体交流会議において、本市とナント市が「日仏交流優良賞」を受賞しました。このことは、両市が互いの文化を尊重し、良いところを学び合い、取り入れようと続けてきた交流の結実であり、また今後の友好関係の発展の大きな支えとなるものです。

今後の交流

ナント市は行政においても、政策や環境問題への取り組みなど参考にすべき点が多くあります。現在本市は、公共交通環境の問題を解決し、環境に配慮しつつ老若男女を問わず快適な都市生活を目指す先進的な都市づくりのため、BRT（バス高速輸送システム）を取り入れた新バスシステムを推進しています。



新潟市で導入する連節バス

また、次世代の交流を担っていく若者たちにも興味を持ってもらい、相互理解を深めさらなる関係を築いていくため、高校生間の交流プロジェクトを計画しています。

多くの人々が大切に育ててきた交流の種の一粒一粒が、やがて芽を出し大輪の花を咲かせ新たな交流の種となるよう、これからも分野を問わず協力し合い、両市の相互発展と両国の良好な友好関係を感じられるまちづくりを進めていきたいと考えています。